海外で活躍の場

新入社員が描く企業の将来

フレッシャーズ 座談会

本社主催 産業論文コンクール入賞者

出席者

【Ⅰ部入賞者】
- パナソニック　木村 綾子さん
- 日本バルカー工業　荊 超さん
- ＩＨＩ　澤田 悠樹さん
- パナソニック　坂本 俊裕さん

【Ⅱ部入賞者】
- 関西国際空港施設エンジニア　五十嵐 暁子さん
- ヤマハモーターソリューション　戸根木 千洋さん
- タンケンシールセーコウ　稲永 龍一さん
- 尾池工業　森本 祐未さん

司会 日刊工業新聞社東京支社編集部記者 森崎まき

日刊工業新聞社は「第35回フレッシャーズ産業論文コンクール2012」の入賞上位8人による座談会を開きました。社会人になって半年余りの皆さんに、就職活動や実社会に出て感じたこと、グローバル化が進展する中での日本企業の強みと弱み、自身のキャリアプランで目指すことなどについて話し合ってもらいました。（入賞論文は11月16日付日刊工業新聞に掲載しています）

●入社の決め手は

海外経験を積める　木村さん
日本で活躍したい　荊さん

木村さん

―受賞おめでとうございます。社会人になったばかりで研修期間でもあるだけに、論文執筆は時間的にも大変だったと思います。今日はみなさんの率直なお考えをお聞きしたいと思います。まず、どんな就職活動をして現在の職業に就いたのでしょうか。

木村　車載部品を扱うグループでマーケティングを担当しています。具体的には、データ会社や新聞から、また社内の各部門と連携をとりながら市場動向をまとめ、関連事業部門や工場に情報提供をしています。就職活動は「日本の魅力や強みを世界に押し出せる仕事」「できるだけ早く海外経験を積める会社」の2点を軸にしました。メーカーだけでなくあらゆる業界を受け、最終的には出会った人に惹かれて入社を決めました。

五十嵐　空港施設をメンテナンスする会社で研修中です。大学では建築専攻で、周囲は大学院進学が大多数だったので随分悩みましたが、勉強になると思って就職を選びました。当初は不動産業界を考えていましたが、帰省でよく飛行機を使っていましたので、地上と空をつなぐ航空業界に魅力を感じるようになりました。施設などハード面を扱う分野に強い当社を志望しました。

荊　5年半ぐらい日本で活躍したいと日系企業に就職しました。夢は海外どこでも飛び込んで仕事ができる「グローバル人材」になること。就職活動では約60社を回り、10社から内定をいただきました。海外事業を拡大しなければならないと、多くの企業で外国人留学生の採用や人事制度の整備が進んでいます。当社も国籍、年齢、性別、宗教に関係なく、能力があれば活躍できる環境を作っています。最終面接での社長のメッセージが決め手となりました。

戸根木　地元で働けること、世界と戦える力を持っている企業であることの2点を軸に探しました。大学、大学院の6年間、情報系を専攻していたので周囲はシステムエンジニア（SE）になる人が多い。SEの世界にはひときわ厳しい労働のイメージがあり志望していなかったのですが、修士研究でシステムを企画、運用したら楽しかったことと、説明会で明るく楽しい雰囲気を感じたので入社を決めました。

澤田　航空エンジンの工場で人事総務を担当しています。就職活動の時は、ロマンのあるダイナミックなものを扱い、グローバルに活躍したいと思っていました。最初は文系が活躍できそうな金融や商社を志望していましたが、たまたまメーカーで働く方から話を聞く機会があり、「文系は主役になり得ないが、技術力の高い日本企業を支えることは、面白いし、やりがいがある」との言葉に共感しメーカーも受け始めました。

幅広い職種との協力　森本さん
会社の雰囲気を重視　稲永さん

森本　金属を溶かしてフィルムに薄膜を形成する技術を持つ会社です。私はナノ（10億分の1）メートルサイズの薄さを持つ金属粉体をつくってメーカーに提案しています。例えば採用されると最終的には自動車の内外装部品にメタリック意匠目的で利用されたりします。人と協力して何かを成し遂げることが好きなので、最終製品メーカーと材料メーカーの間で橋渡しをするような会社なら、幅広い職種の方と協力できるのではないかと思い探しました。

坂本　携帯電話に使う「SAWフィルタ」という部品を設計しています。博士課程への進学も考えましたが、博士号取得は社会人になってからでもできると思いました。当社を選んだのは家電が好きだから。家電量販店で各社のさまざまな商品に触れて楽しんでいるうちに、4―5時間たってしまいます。自分にとっては遊園地のような場所です。

稲永　メカニカルシールの営業担当です。ポンプなどの回転機器で、回転軸のすき間に装着して液体の漏れを防ぐものです。大学は社会科学系だったので直結して仕事につながるものもなく、就職活動を始めた当初は何のビジョンもありませんでした。たまたま機械製造業を受けた時に人事担当者に図面を見せられましたが、何が描いてあるのか全く分からなかったんです。「入社したら読めるようになるよ」と言われて興味を持ちました。入社の決め手はやっぱり人。会社が僕らを見ているように、僕らも会社の雰囲気を見ていますよね。この会社は嫌な感じだなとか、上から目線だなとか。気が合いそうだなと思った会社に決めました。動きながら固まっていった就職活動でしたね。

●社会人になって何が変わった

責任の重さを実感　五十嵐さん
チームで動くこと　戸根木さん

荊さん

澤田さん

坂本さん

―社会人になって率直に感じたことを教えてください。

木村　海外に出る前に学ばなければならないことが多いなと感じました。恵まれた職場環境に感謝していますが、常に目的を意識して仕事をしないと、成長の機会を逃してしまう。のんびりしていてはいけないという危機感もあります。

五十嵐　誰のために働いているのか意識するようになりました。入社前は空港を利用するお客さまのために働くのだと思っていましたが、それだけでなく、航空会社の方や空港で働く方の職場も支えているので、想像以上に責任が重い仕事だと感じました。

―荊さんは海外研修中だそうですね。

荊　3カ月ごとに日本、タイ、中国を回り、現地の工場でモノづくりを学んだり営業研修を受けたりしています。感じたのは、グローバル人材になりたい、なれると思っていたけど甘かったですね。現地の文化を理解し価値観を共有しないと仕事ができず、想像以上に難しい。一方で、英語が苦手なのでタイ研修時に苦労したのですが、語学力ではなく伝えたい気持ちが一番大事だということも分かりました。

戸根木　私も研修中です。難しいのは時間の使い方。学生時代は課題が終わらなかったら睡眠時間を削るなど自分が無理すればいい。でも今は決められた時間内にこなすことが求められる。一つひとつにかける時間や優先順位を考えるようになりました。それに、学生時代の研究は個人で行っていましたが、研修は同期7人がチームとなりプロジェクトを任されています。チームで動くことを意識するようになりました。

―澤田さんは「グローバルに活躍したい」ことが入社志望だそうですが。

澤田　海外営業志望だったので、配属が国内工場の人事で複雑な思いがありましたが、まず与えられた場所で結果を出そうと思うようになりました。社内の従業員とのやりとりが中心ですが、人に頼み事をするのは難しいことだと感じました。電子メールを送るだけでなく、送信直後に会いに行ってお願いするなど、まず関係性を築くことが大事だと分かりました。あとは宇宙ロケットのエンジンを作ると聞くと、最先端のイメージでしたが、実際は多くの工程において人の手で組み立てていることに驚きました。メーカーの原点である工場現場で働けるのはありがたい経験ですね。

まず関係性を築くこと　澤田さん
いろんな考え方に刺激　坂本さん

―時間管理などについてはどうでしょうか。

坂本　研究室では自分が好きなだけ研究できましたが、業務では時間に制限があるのが大きな違いですね。また、研究室なら皆が同じテーマを研究していますが、同期入社の仲間など面白い人がたくさんいて、いろんな考え方があるんだなと刺激を受けています。

稲永　大学にも多様性はありますが、やはりバックグラウンドが似た人が集まる。会社には15歳から40、50年間工場で働いている人もいるし、海外現地法人には当然ながら外国の方もいる。そういう皆さんと日々議論したり、協力したり食事をして、人間としての幅が広がったと感じますね。

森本　中小企業ならではかもしれませんが、仕事の種類が多いことに驚いています。私の場合、素材をつくることも、物性評価も、営業にも携わります。大学生の時は与えられたテーマだけについてやればよかった。同時並行で考えなければならないことがたくさんあり試行錯誤の日々です。

稲永　私も営業職場ですが材料選定にも携わったりしています。こういう役割分担の曖昧さは中小企業の強みになると感じています。専門的とまではいかなくても、他の部署の業務も知ることで問題が起きた時に一致団結して取り組める。今も、開発の人が新商品開発の発表をしているのを営業担当者も聞いて「そこはおかしいだろう」と突っ込んだりと活発にやりとりをしています。

森本　私も一緒です。配属先が小さな部署なので、設備を借りるために工場のなかをあちこち動き回っていると顔見知りが増えてきました。考えて手が止まっていると「どうしたんだ」「こんな設備があるけど使うか」と教えていただけます。社内の連携というか団結力は強いですね。

第36回 フレッシャーズ産業論文コンクール2013

今しか書けないことがある。

「フレッシャーズ産業論文コンクール」は企業を始めとする産業界の課題である〝人づくり〟を支援するための顕彰事業として、新入社員を対象に実施しています。
社会人として世の中や自分を見つめる機会としてだけではなく、さまざまな事を感じ、考え、文章にする「社員研修」のひとつとして、多くの企業から教育ツールとしてご利用頂いております。

応募資格　コンクール参加企業の新入社員（2013年度入社）
※Ⅰ部 大手企業／Ⅱ部 中堅・中小企業。
※共同執筆は1論文につき3名まで。
※個人での参加は受け付けておりません。

論文締切　2013年8月22日（木曜日）
※Eメールでの応募締切も同日

入選発表　2013年11月　日刊工業新聞紙上

※応募論文の版権は日刊工業新聞社に帰属します。また応募論文は返却しませんので、念のため各企業でコピー保存してください。
※手書きの場合は、ボールペンまたは万年筆をご使用ください。

専用ホームページ http://www.nikkan.co.jp/fresh/

Ⅰ部
- 論文テーマ　「あすの企業を考える」 ※各自必ず副題をつけてください
- 論文枚数　B4判 400字詰 縦書き原稿用紙10枚（本文） ※社名・出身校名入りの原稿用紙は使用不可
- 表彰　経済産業大臣賞（予定）／1名　第二席（1名）第三席（2名）優良賞（3名）他
- 参加費　1口 84,000円（税込）（5名分）

Ⅱ部
- 論文テーマ　「中堅・中小企業の将来像を考える」 ※各自必ず副題をつけてください
- 論文枚数　B4判 400字詰 縦書き原稿用紙5枚（本文） ※社名・出身校名入りの原稿用紙は使用不可
- 表彰　日本商工会議所会頭賞（予定）／1名　第二席（1名）第三席（2名）優良賞（3名）他
- 参加費　1口 50,400円（税込）（3名分）

参加者全員が日刊工業新聞を3ヶ月無料でお読み頂けます。

主催：日刊工業新聞社　後援：経済産業省、日本商工会議所、日本経済団体連合会、経済同友会、日本生産性本部、日本能率協会　※前回ご後援いただいた団体です

お問い合わせ　日刊工業新聞社 フレッシャーズ産業論文コンクール事務局　〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1　TEL 03-5644-7253 FAX 03-5644-7261